

製品名: CLIC4 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09040**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	29kDa

抗原情報

遺伝子名	CLIC4
別名	CLIC4; Chloride intracellular channel protein 4; Intracellular chloride ion channel protein p64H1
遺伝子 ID	25932.0
SwissProt ID	Q9Y696
免疫原	抗血清はヒト CLIC4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

背景

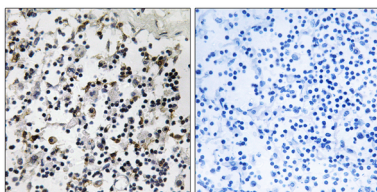
塩化物イオンチャンネル4 (CLIC4) ホモサピエンス 塩化物イオンチャンネルは、細胞膜電位の安定化、経上皮輸送、細胞内 pH の維持、

細胞容積の調節など、基本的な細胞プロセスを制御する多様なタンパク質群です。CLIC4 遺伝子によってコードされる塩化物イオンチャンネル4 (CLIC4) タンパク質は p64 ファミリーに属し、多くの組織で発現しており、Panc-1 細胞 (膵臓癌細胞) では細胞内小胞パターンを示します。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、ドメイン: このファミリーのメンバーは、球状の可溶性状態から、N 末端ドメインが膜に挿入され塩化物イオンチャンネルとして機能する状態へと変化することがあります。N 末端ドメインの構造変化は、膜挿入を誘発する疎水性表面を露出させると考えられています。機能: 膜に挿入され、選択性の低いイオンチャンネルを形成し、塩化物イオンも輸送する可能性があります。チャンネルの活性は pH に依存します。膜挿入は酸化還元制御下にあり、酸化条件下でのみ起こると考えられる。HRH3 の細胞表面発現を促進する。血管新生に関与する可能性がある。誘導: 分化中のケラチノサイトにおいて、カルシウムイオンによって発現が上昇する。類似性: 塩化物チャンネル CLIC ファミリーに属する。類似性: 1 つの GST C 末端ドメインを含む。細胞内局在: 可溶性細胞質タンパク質と、おそらく単一の膜貫通ドメインを持つ膜タンパク質の両方として存在する。トランスゴルジ網小胞に相当する細胞内小胞区画に存在する。サブユニット: モノマー。HRH3 と相互作用する。組織特異性: 結腸、食道、腎臓の上皮細胞で検出される (タンパク質レベル)。心臓、胎盤、骨格筋で顕著に発現する。

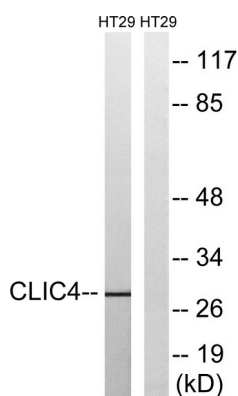
研究分野

細胞生物学

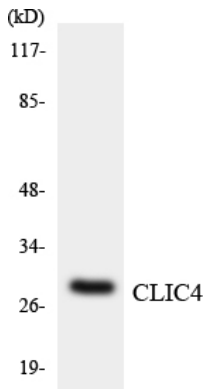
画像データ



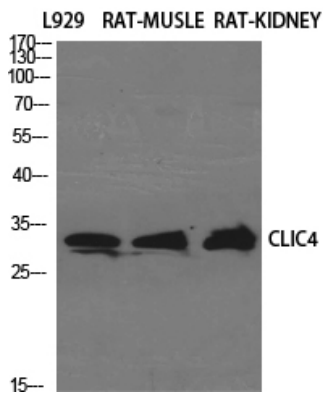
CLIC4 抗体を用いたパラフィン包埋ヒトリンパ節組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



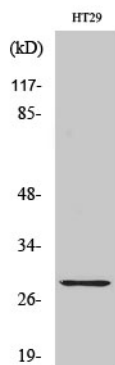
CLIC4 抗体を用いた HT-29 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



CLIC4 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



CLIC4 ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



CLIC4 ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた HT29 細胞のウェスタンブロット解析